

Kドリームス杯



5/18(水) 19(木) 20(金)

川崎スポーツ

レース展望

5月18日から開催される川崎競輪はF2ナイター。Kドリームス杯。ガールズケイリンを含む12レースで行われる。

1、2班戦は突出した実力者が無く各地区接戦となりそうだ。地元南関東地区は機動型が少なくやや劣勢。自在な亀井久幸(千葉95期)やカマシ強力な齊藤健人(静岡92期)らの機動力が頼みとなるが、安定感を欠く。キメ脚に復調の気配を感じる植木和広(神奈川98期)や何でもこなせるホームバンクの伊藤彰規(神奈川96期)らの奮起に期待したいところ。強力なのは関東でオールラウン

ダーの小林申太(茨城101期)や徹底先行の梁島邦友(茨城117期)らがレースを作れば長井優斗(東京95期)や大矢将大(埼玉81期)らの差し脚が生きてくる。北日本勢はやや手薄も自力兼備のベテラン高谷雅彦(青森67期)の一撃に期待。遠征勢の中心は中村一将(兵庫86期)で経験豊富なベテラン坂上忠克(石川71期)と共に優勝戦線に食い込んできそう。

チャレンジ戦は大高彰馬(福島119期)と中込健太(秋田119期)の若い強力機動型2人を擁する北日本が一歩リードとみていいが、

地元ホームバンクの山本淳(神奈川94期)が自力自在の総力戦で突破口を開けるかどうか。関東勢は機動型不足で苦しい戦いを強いられそう。

ガールズケイリンは当地好走する鈴木美教(静岡112期)を筆頭に、柳原真緒(福井114期)、細田愛未(埼玉108期)の3強が中心となりそうだが、徐々に力を付けてきた山口真未(静岡120期)が加わり激戦となりそう。地元ホームの高木佑真(神奈川116期)や永塚祐子(神奈川118期)もV争いに加わる力は十分にある。

各ライン差は無く波乱含み

A級
主力選手



中村一将 兵庫 86期

かつてはS級での優勝も経験しており、グレードレースにも多く出場してきた中村一将だが今期はA級戦。デビュー以来ほぼS級戦での自力で三百勝を上回る勝星を重ねている。上位での戦いでも豪快なカマシ、まくりで穴党ファンを沸かせてきた。45歳となった現在でも自ら動いて戦う自力のキャリアが長い本格派。一時はバック本数や自力の決まり手も減っていたが、今期のA級戦は十本前後のバック数を維持しつつ精神的な走りを見せる。もちろんカマシやまくりが勝ちパターンではあるが、勝負所でロングスパートも辞さない走りは別線も警戒レベルを上げざるを得ない。来期のS級復帰に向けて弾みを付けるか。

A級
主力選手



植木和広 神奈川 98期

落車の影響から一時は競走得点を大幅に落としていた植木和広だが、かなり状態を戻してきている。4月の弥彦では予選で絶体絶命のピンチの展開に置かれたものの、直線で外を突き抜けて一勝を挙げると、準決勝も好展開をモノにして連勝。今年初めて決勝進出を果たした。そんな植木に状態を聞くと、「もう脚の方は良くなってきていますね。あとは自転車の方が噛み合ってくれば、もう少し良くなると思いますよ」と前向きなコメント。今シーズは南関の機動型が手薄ではあるが、いまの植木のキレなら、ある程度の位置を確保していれば直線だけで十分に勝負になる。連日車券の狙い目からは外せない。

A級
主力選手



梁島邦友 茨城 117期

徹底先行のスタイルを貫き成長を続けている梁島邦友に注目。先行にこだわったとはいえ、養成所時代は未勝利に終わり63位で卒業。本格デビューを果たしてから初勝利まで二カ月以上かかり、同期からも大きく遅れをとっていた。決して順調ではないスタートだった梁島だが、「先を見据えてやるべき事をしっかりと」と先行勝負にこだわり地脚を磨き続けた結果、ようやく1、2班へ昇格を果たし、初優勝も決めた。決勝で勝負になる先行力を身に付けた。特進で豪快に出世をしていった同期達と比べれば派手さは無いが、こつこつと力を付けてきた梁島はS昇級も見える位置に到達。積極的な走りは魅力十分だ。



ガールズ
注目選手

高木佑真 神奈川 116期

愛らしいリックスでファンも多い地元ホームの高木が参戦。一昨年は初優勝を果たすなど、着実に力も付けてきている。コンスタントに決勝進出は果たしているものの、今年は準Vが一回で未勝利。以前の様に積極的な自力にこだわるとは、流れに応じた柔軟な走りが目立つようになってきたが、優勝できる脚力は実証済みなので、走りの幅が広がれば更なるレベルアップも十分に見込める。強力な相手を迎え撃つ今シリーズだが今年初勝利を目指したいところ。いまや人気先行のアイドルレーサーだけではなく高木が地元戦で気迫の走りを見せる。



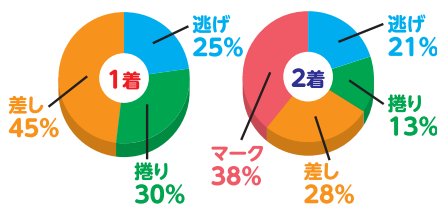
A級
注目選手

山本 淳 神奈川 94期

競輪学校入学への年齢制限が撤廃されたのが93期以降。この制度が山本淳の人生を一変させた。社会人を経て競輪界の門を叩いた山本は94期、30歳を過ぎてからデビューを果たす。46歳となった現在も自力選手として若手に負けず走り活躍。今期はチャレンジ戦となってしまうものの、3月静岡では山本らしい逃げ切りで通算二百勝を達成。脚質的にも現在の7車立てには適さない部分もあるが、しっかり長い距離を踏めるのがこの人の魅力。松戸での失格が痛手となっているが、この地元戦は結果が求められるところ。好走に期待したい。

川崎競輪場バンクガイド

直線が長く、最終4コーナーから直線にかけてイエローライン付近が強襲コースで外を踏める選手が穴を演出する。



俺にまかせろ! 川崎仮面の

開催中 毎日 OA!

YouTube

ニコニコ放送 NICO NICO LIVE



競輪は適度に楽しみましょう。車券の購入は20歳になってから。

【発行】川崎競輪 【監修】川崎サイクル